

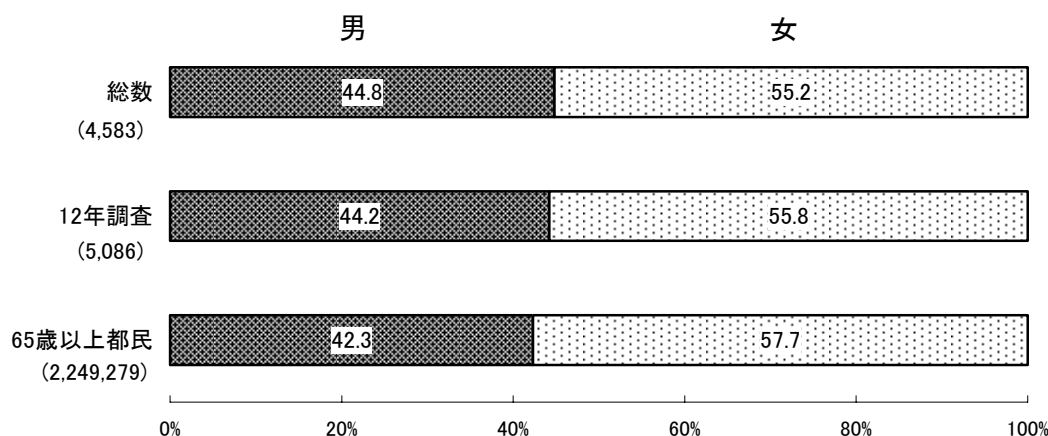
第 2 調査結果の概要

第1章 調査対象者の基本的属性

1 性別

本調査集計対象者の性別は、男性 44.8%、女性 55.2%である。(図 1-1)

図 1-1 性別—12 年調査、65 歳以上都民との比較



(注) 65 歳以上都民は、「住民基本台帳による東京都の世帯と人口 (平成 18 年 1 月 1 日)」より作成。表 1-1 も同じ。

2 年齢階級

平均年齢は、74.4 歳である。年齢階級は、12 年調査では前期高齢者 (注) が 61.9%、後期高齢者が 38.1%であったが、本調査では前期高齢者が 57.0%、後期高齢者が 43.0%に変化している。(表 1-1)

性別でみると、後期高齢者の割合は、男性が 38.8%、女性は 46.3%であり、女性が男性よりも 7.5 ポイント高くなっている。

表 1-1 年齢階級—性別、12 年調査、65 歳以上都民との比較

		(単位: %)							
		総 数	65～69歳	70～74歳	65歳～74歳 (再掲)	75～79歳	80～84歳	85歳以上	75歳以上 (再掲)
本 調 査	総数	100.0 (4,583)	27.9	29.1	<u>57.0</u>	20.8	13.5	8.7	<u>43.0</u>
	男	100.0 (2,052)	31.4	29.7	61.2	20.4	11.5	6.9	<u>38.8</u>
	女	100.0 (2,531)	25.0	28.6	53.7	21.2	15.0	10.1	<u>46.3</u>
1 2 年 調 査	総数	100.0 (5,086)	35.0	26.9	<u>61.9</u>	19.1	11.1	7.9	<u>38.1</u>
	男	100.0 (2,246)	37.6	28.0	65.5	17.7	10.8	6.0	34.5
	女	100.0 (2,840)	33.0	26.1	59.1	20.1	11.4	9.4	40.9
6 5 歳 以 上 都 民	総数	100.0 (2,249,279)	30.6	26.9	57.4	<u>19.5</u>	12.5	10.5	42.6
	男	100.0 (950,753)	14.3	12.2	62.7	8.2	4.5	3.0	37.3
	女	100.0 (1,298,526)	16.2	14.7	53.6	11.3	8.0	7.5	46.4

(注) 65 歳から 74 歳までを「前期高齢者」、75 歳以上を「後期高齢者」という。

3 地域

居住地域は、区部が67.1%、市町村部が32.9%である。区部では「区西北部」が15.4%と最も多く、市町村部では「南多摩」が9.1%と最も多い。(表1-2)

表1-2 地域

(単位: %)																
	総 数	区 部	区 中 央 部	区 南 部	区 西 南 部	区 西 部	区 西 北 部	区 東 北 部	区 東 部	市 町 村 部	西 多 摩	南 多 摩	北 多 摩 西 部	北 多 摩 南 部	北 多 摩 北 部	島 し よ
総数	100.0 (4,583)	67.1 (3,073)	4.8 (221)	8.4 (387)	8.8 (405)	7.9 (360)	15.4 (706)	12.2 (559)	9.5 (435)	32.9 (1,510)	4.2 (191)	9.1 (417)	4.8 (218)	8.1 (370)	6.9 (314)	- (0)
当該地区			千代田区、中央区、港区、文京区、台東区	品川区、大田区	目黒区、世田谷区、渋谷区	新宿区、中野区、杉並区	豊島区、北区、板橋区、練馬区	荒川区、足立区、葛飾区	墨田区、江東区、江戸川区		青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町	八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市	立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市	武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市	小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市	伊豆諸島

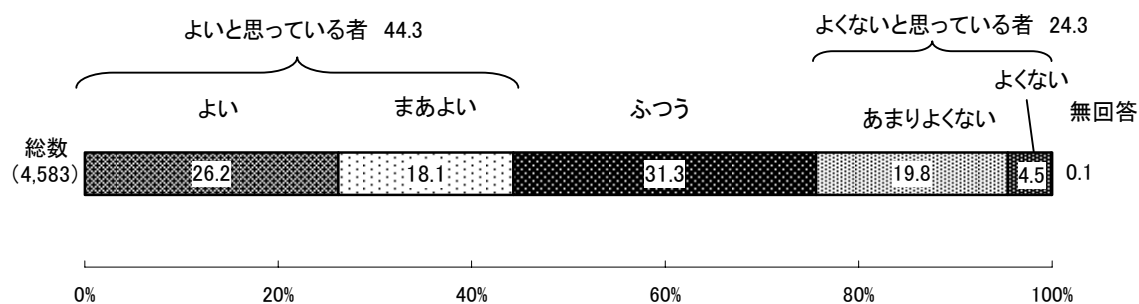
(注) 本調査の調査地区で、「島しょ」の該当はない。

4 健康

(1) 健康意識

健康状態を本人に尋ねたところ、「ふつう」が31.3%と最も多い。「よいと思っている者」（「よい」「まあよい」を合計）は44.3%、「よくないと思っている者」（「あまりよくない」「よくない」を合計）は24.3%であった。（図 1-2）

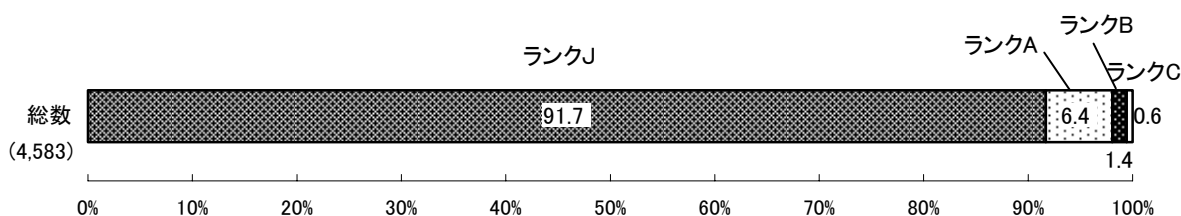
図 1-2 健康意識



(2) 日常生活動作（ADL）の状況

日常生活動作（ADL）の状況をみると、91.7%が「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」自立した高齢者である。（図 1-3）

図 1-3 日常生活動作（ADL）の状況



（注） ランクの区分は「障害老人の日常生活自立度（ねたきり度）判定基準」（厚生労働省）による。

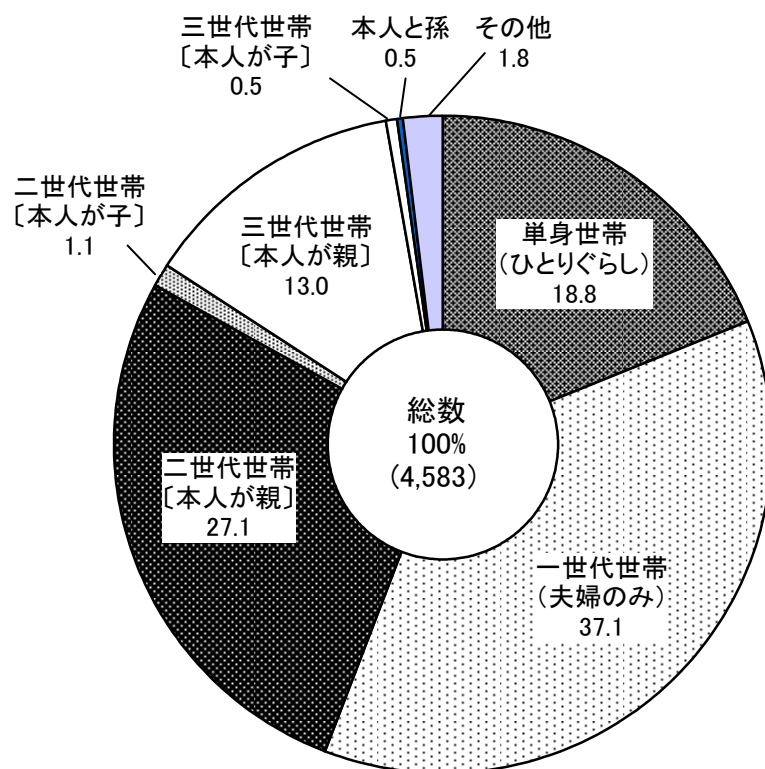
ランクJ	生活自立	日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる。
ランクA	準ねたきり	食事、着替え、排泄はだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である。
ランクB	ねたきり	食事、着替え、排泄のいずれかにおいて部分的に介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる。
ランクC		1日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排泄のいずれにおいても全面的な介助が必要である。

5 世帯

(1) 世帯構成（世代別）

世帯構成を世代別でみると、「一世代世帯（夫婦のみ）」が 37.1%と最も多く、次いで「二世世代世帯〔本人が親〕」27.1%、「単身世帯（ひとりぐらし）」18.8%、「三世世代世帯〔本人が親〕」13.0%となっている。（図 1-4）

図 1-4 世帯構成（世代別）



(2) 世帯類型

世帯類型別でみると、「高齢者のみの世帯」が 52.4%、「高齢者のみでない世帯」が 46.1%である。（表 1-3）

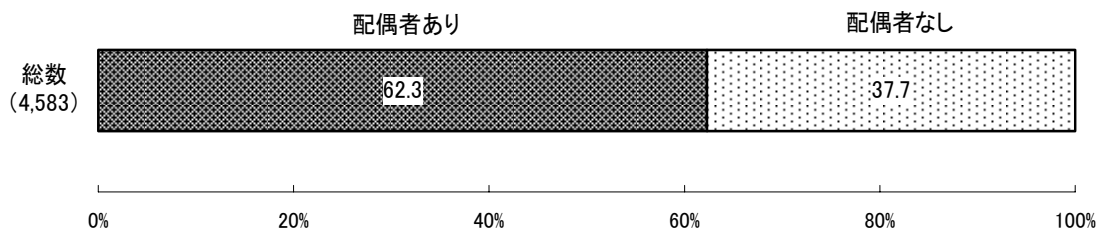
表 1-3 世帯類型

(単位: %)													
総数	高齢者のみの世帯	ひとりぐらし	高齢者夫婦のみ	その他	高齢者のみでない世帯	夫婦のみ	高齢者と配偶者のいない子	高齢者と配偶者のいる子	高齢者と配偶者のない子と孫	高齢者と配偶者のある子と孫	その他	不明	
総数 (4,583)	100.0	52.4	18.8	31.7	1.9	46.1	5.1	23.6	3.1	1.9	10.8	1.7	1.5

(3) 配偶者の有無

配偶者のある高齢者は 62.3%である。(図 1-5)

図 1-5 配偶者の有無



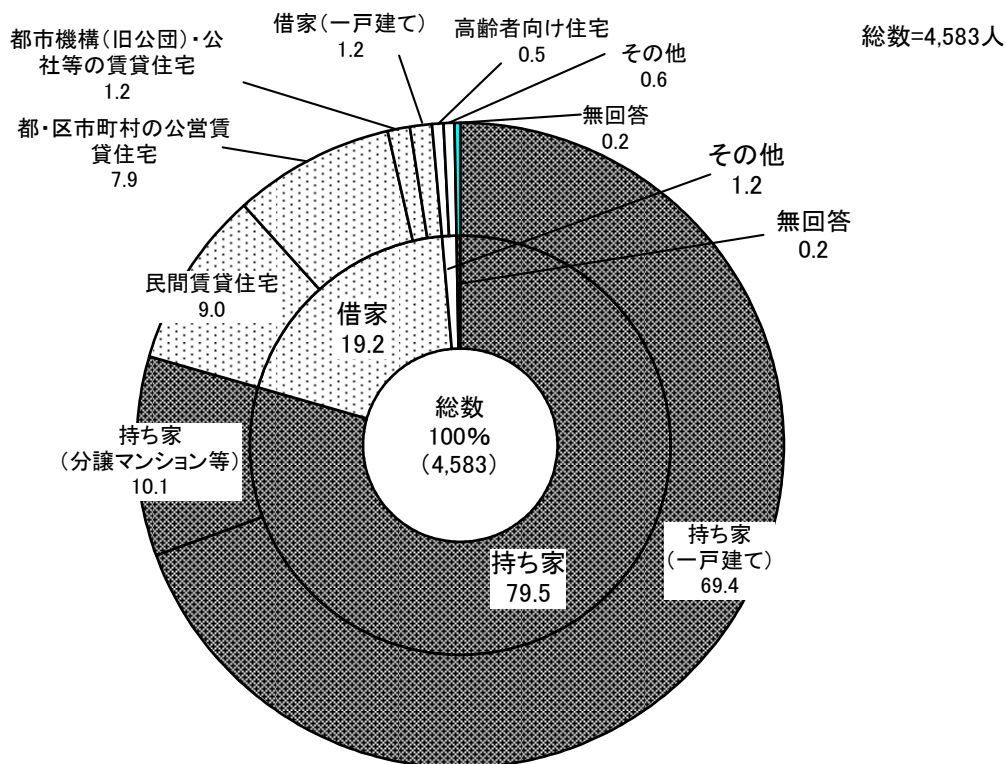
(注)「配偶者なし」には、配偶者と別居中の者等を含む。

6 住宅の種類

現在住んでいる住宅の種類を尋ねたところ、「持ち家（一戸建て）」が 69.4%と最も多く、次いで「持ち家（分譲マンション等）」10.1%、「民間賃貸住宅」9.0%と続いている。

持ち家・借家別でみると、持ち家が 79.5%と 8 割近くを占める。(図 1-6)

図 1-6 住宅の種類



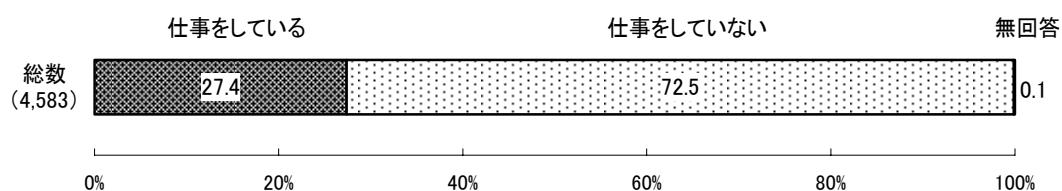
(注) 高齢者向け住宅は、シルバーピア、高齢者向け優良賃貸住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどを指す。

7 就業

(1) 現在の就業状況

現在収入のある仕事をしているかと尋ねたところ、「仕事をしている」は27.4%、「仕事をしていない」は72.5%である。(図 1-7)

図 1-7 収入のある仕事の有無



(2) 最長職業

今までに一番長く従事した仕事は何かと尋ねたところ、「常勤の被雇用者」が41.9%と最も多く、次いで「自営業（家族従業者含む）」28.6%、「家事専業（専業主婦）」18.5%となっている。(表 1-4)

性別でみると、男性では「常勤の被雇用者」が62.6%と6割を超え、次いで「自営業（家族従事者含む）」34.7%となっている。女性では「家事専業（専業主婦）」が33.4%と最も多く、次いで「常勤の被雇用者」25.1%となっている。

表 1-4 最長職業－性別

	総 数	自 営 業 （ 家 族 従 業 者 含 む ）	常 勤 の 被 雇 用 者	常 勤 で な い 被 雇 用 者	臨 時 ・ パ ー ト	内 職	そ の 他 の 就 業	家 事 専 業 （ 専 業 主 婦 ）	仕 事 に 就 いた こ と は な い	無 回 答
総数	100.0 (4,583)	28.6	41.9	1.2	7.5	1.0	0.2	18.5	1.0	0.2
男	100.0 (2,052)	34.7	62.6	1.5	0.9	－	－	－	0.1	－
女	100.0 (2,531)	23.6	25.1	1.0	12.9	1.7	0.2	33.4	1.7	0.2

第2章 家族

1 世帯

(1) 世帯人員

ひとりぐらしの高齢者は、男性では10人に1人、女性では4人に1人にのぼる。

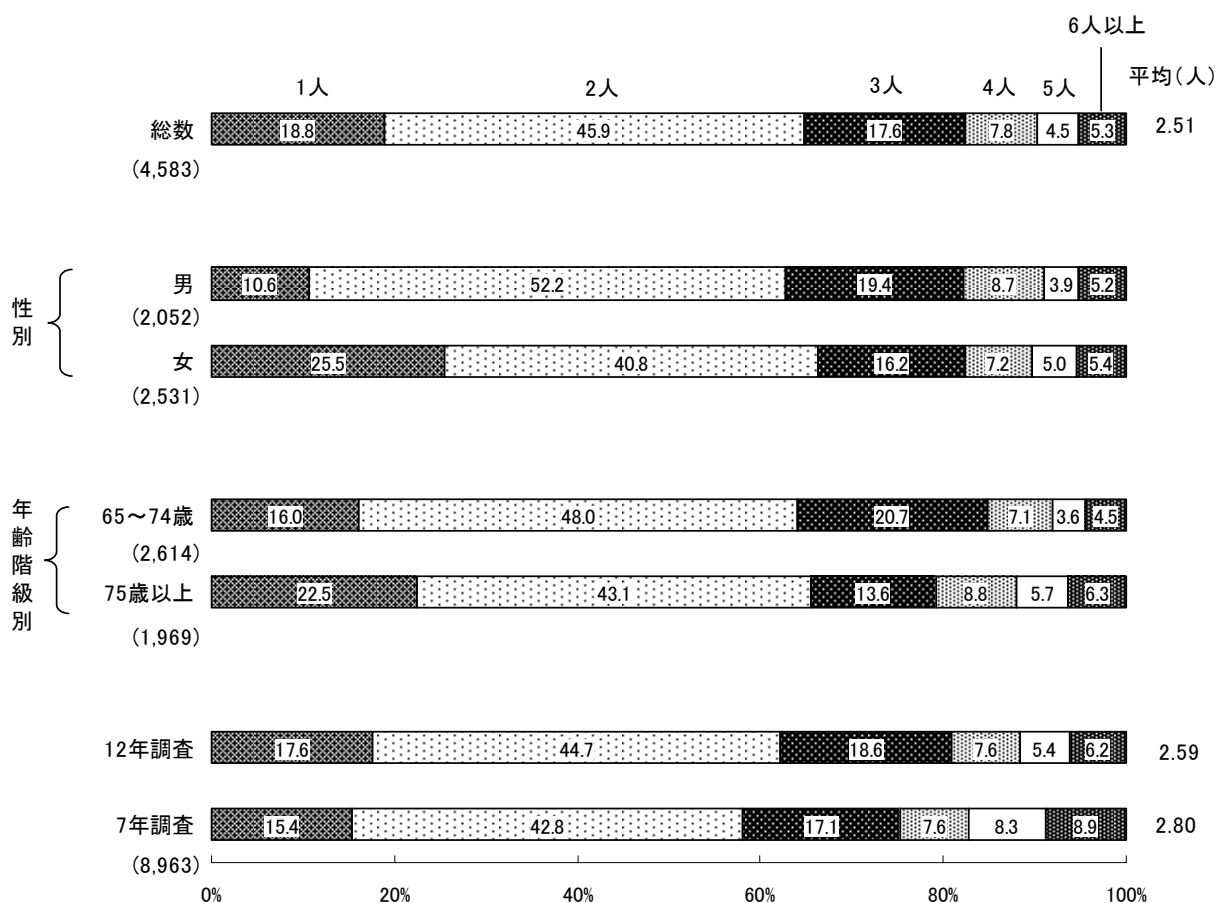
世帯人員の平均は2.51人である。割合の最も多い世帯人員は「2人」の45.9%であり、次いで「1人」18.8%、「3人」17.6%となっている。(図2-1)

過去の調査と比べると、「1人」「2人」が増加傾向にあることがわかる。

性別でみると、ひとりぐらしである「1人」は、男性10.6%に比べて女性25.5%と、女性の割合は男性の倍以上である。

年齢階級別でみると、後期高齢者(75歳以上)では、前期高齢者(65～74歳)に比べて「1人」が増加し、22.5%と2割を超えている。

図2-1 世帯人員一性、年齢階級別、過去調査(平成7年～)との比較



(2) 世帯構成（世代別）

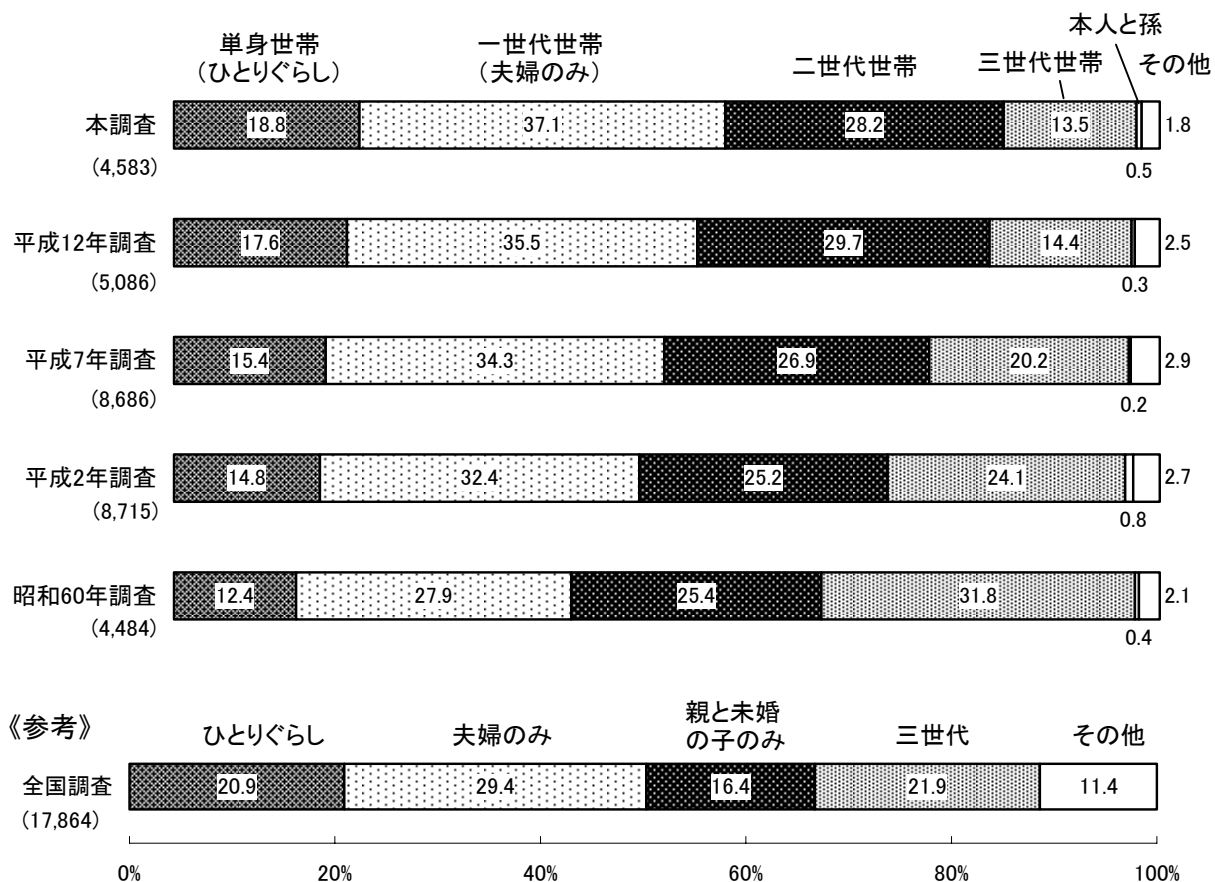
単身世帯（ひとりぐらし）と一世代世帯（夫婦のみ）が増加する一方、三世代世帯は減少。

世帯構成を世代別でみると、「一世代世帯（夫婦のみ）」が 37.1%と最も多く、次いで「二世代世帯」28.2%、「単身世帯（ひとりぐらし）」18.8%、「三世代世帯」13.5%の順となっている。（図 2-2）

過去の調査と比べると、60 年調査以来、20 年間で「単身世帯（ひとりぐらし）」が 6.4 ポイント（60 年調査 12.4%→本調査 18.8%）、「一世代世帯（夫婦のみ）」が 9.2 ポイント（60 年調査 27.9%→本調査 37.1%）増加している一方、「三世代世帯」は 18.3 ポイント（60 年調査 31.8%→本調査 13.5%）と急激に減少している。

全国調査と比べると、「一世代世帯（夫婦のみ）」は本調査が 7.7 ポイント（本調査 37.1%、全国調査 29.4%）高いが、「三世代世帯」は本調査が 8.4 ポイント（本調査 13.5%、全国調査 21.9%）低くなっており、東京都は全国平均に比べて「一世代世帯（夫婦のみ）」が多く、「三世代世帯」が少ないことがわかる。

図 2-2 世帯構成（世代別）－過去調査（昭和 60 年～）、全国調査との比較



(注) 全国調査は、厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成 16 年)による。

性別でみると、男性は「一世代世帯（夫婦のみ）」で暮らしている割合が 48.3%と 5 割弱にのぼるが、女性は 28.0%と 3 割弱にとどまっている。（表 2-1）

年齢階級別でみると、後期高齢者（75 歳以上）の「単身世帯（ひとりぐらし）」の割合は、男性は 1 割であるが、女性は 3 割にのぼっている。

地域別でみると、「単身世帯（ひとりぐらし）」は区部が市町村部よりも 4.5 ポイント（区部 20.3%、市町村部 15.8%）高い。一方「一世代世帯（夫婦のみ）」は、市町村部が区部よりも 6.4 ポイント（区部 35.0%、市町村部 41.4%）高い。

表 2-1 世帯構成（世代別）一性、年齢階級、地域別

		総 数	単 身 世 帯 (ひ と り ぐ ら し)	一 世 代 の 世 帯 (夫 婦 の み)	二 世 代 と 子 の 世 帯 (親 と 子)	本 人 1 位 が 親 (本 人 が 1 位 親)	本 人 2 位 が 子 (本 人 が 2 位 子)	三 世 代 と 子 と 孫 の 世 帯 (親 と 子 と 孫)	本 人 1 位 が 親 (本 人 が 1 位 親)	本 人 2 位 が 子 (本 人 が 2 位 子)	本 人 と 孫	そ の 他
総数		100.0 (4,583)	18.8	37.1	28.2	27.1	1.1	15.8	13.0	0.5	0.5	1.8
性・年齢階級別	男	100.0 (2,052)	10.6	<u>48.3</u>	28.6	27.3	1.3	11.1	10.3	0.8	—	1.3
	65～69歳	100.0 (645)	10.5	46.7	33.6	30.7	2.9	7.0	5.7	1.2	—	2.2
	70～74歳	100.0 (610)	11.0	47.9	30.3	29.3	1.0	9.8	8.7	1.1	—	1.0
	75～79歳	100.0 (419)	10.7	54.2	21.5	21.2	0.2	12.4	12.2	0.2	—	1.2
	80～84歳	100.0 (237)	9.3	48.5	24.5	24.5	—	17.3	17.3	—	0.4	—
	85歳以上	100.0 (141)	11.3	40.4	26.2	26.2	—	21.3	21.3	—	—	0.7
	75歳以上 (再掲)	100.0 (797)	<u>10.4</u>	50.1	23.2	23.1	0.1	15.4	15.3	0.1	0.1	0.8
	女	100.0 (2,531)	25.5	<u>28.0</u>	27.9	27.0	0.9	15.4	15.2	0.3	0.9	2.3
	65～69歳	100.0 (634)	18.1	32.0	37.7	35.0	2.7	9.8	8.8	0.9	0.5	1.9
	70～74歳	100.0 (725)	23.3	37.2	24.8	24.1	0.7	12.8	12.8	—	0.3	1.5
	75～79歳	100.0 (536)	32.3	28.5	22.4	22.0	0.4	13.6	13.4	0.2	0.9	2.2
	80～84歳	100.0 (380)	29.2	16.6	23.9	23.9	—	24.7	24.7	—	1.1	4.5
	85歳以上	100.0 (256)	30.1	7.4	30.1	30.1	—	27.0	27.0	—	3.1	2.3
	75歳以上 (再掲)	100.0 (1,172)	<u>30.8</u>	20.1	24.6	24.4	0.2	20.1	20.1	—	1.5	3.0
地域別	区部	100.0 (3,073)	<u>20.3</u>	<u>35.0</u>	28.8	27.5	1.2	15.9	12.7	0.7	0.5	2.1
	市町村部	100.0 (1,510)	<u>15.8</u>	<u>41.4</u>	27.2	26.4	0.8	15.7	13.7	0.1	0.6	1.3

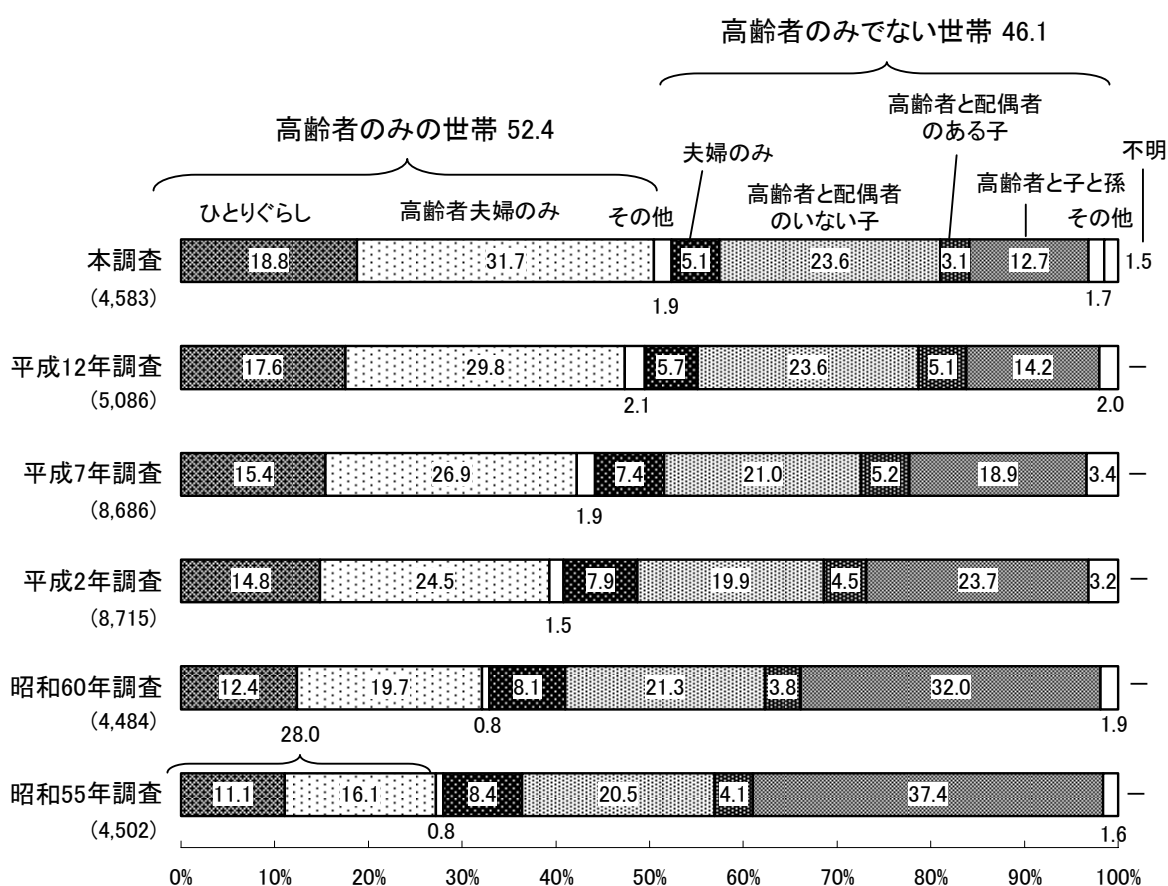
(3) 世帯類型

高齢者のみの世帯（ひとりぐらし、高齢者夫婦のみ、その他）の割合は、25 年間でほぼ 2 倍となり、初めて半数を超えた。

世帯類型別でみると、「高齢者のみの世帯」の割合は、調査を開始した昭和 55 年から一貫して増加し続け、52.4%となり、初めて半数を超えた。「ひとりぐらし」は 18.8%と 2 割弱、「高齢者夫婦のみ」も 31.7%と 3 割を超え、それぞれ調査開始以来増加している。

(図 2-3)

図 2-3 世帯類型—過去調査（昭和 55 年～）との比較



(注) 高齢者とは、65 歳以上を指す。

年齢階級別でみると、「65～69 歳」では、「高齢者と配偶者のいない子」が 30.2%と 3 割を超え、最も多い類型となっている。「70～74 歳」「75～79 歳」「80～84 歳」の年齢階級では、いずれも「高齢者夫婦のみ」が最も多い類型となっているが、「85 歳以上」になると、「ひとりぐらし」が 23.4%で最も多い類型となり、年齢階級が上がるとともに配偶者との死別等により、「ひとりぐらし」が増加傾向にあることがわかる。(表 2-2)

動作能力類型別でみると、ねたきり等の高齢者でも、「高齢者のみの世帯」は 46.7%にのぼり、その内訳として「ひとりぐらし」は 18.9%、「高齢者夫婦のみ」は 23.1%となっている。

表 2-2 世帯類型一性、年齢階級、動作能力類型別

(単位: %)

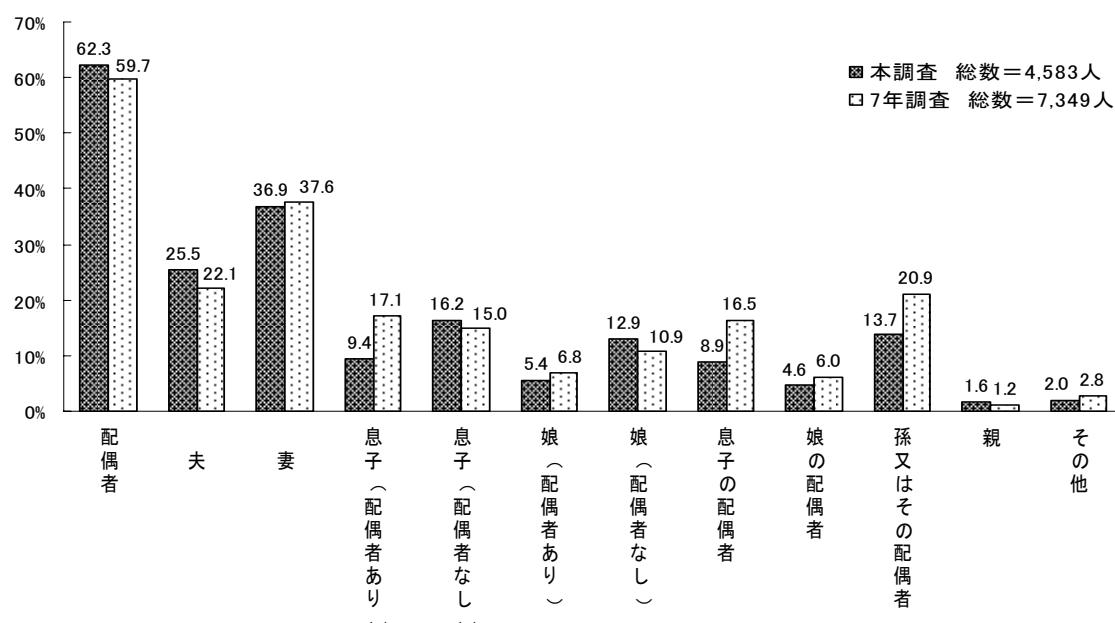
		総 数	高 齢 者 の み の 世 帯	ひ と り ぐ ら し	高 齢 者 夫 婦 の み	そ の 他	高 齢 者 の み で な い 世 帯	夫 婦 の み	高 齢 者 と 配 偶 者 の い な い 子	高 齢 者 と 配 偶 者 の あ る 子	高 齢 者 と 配 偶 者 の な い 子 と 孫	高 齢 者 と 配 偶 者 の あ る 子 と 孫	高 齢 者 と 配 偶 者 の あ る 子 と 孫 の 他	不 明
総数		100.0 (4,583)	52.4	18.8	31.7	1.9	46.1	5.1	23.6	3.1	1.9	10.8	1.7	1.5
性 別	男	100.0 (2,052)	49.1	10.6	37.6	0.9	49.6	10.5	24.6	2.8	1.5	8.7	1.6	1.3
	女	100.0 (2,531)	55.1	25.5	26.9	2.8	43.2	0.8	22.8	3.2	2.2	12.5	1.7	1.7
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (1,279)	41.8	14.3	25.3	2.2	57.0	14.0	<u>30.2</u>	2.9	1.1	6.1	2.7	1.2
	70～74歳	100.0 (1,335)	57.4	17.7	<u>38.5</u>	1.2	41.4	3.2	24.8	1.8	1.6	9.1	1.0	1.2
	75～79歳	100.0 (955)	62.4	22.8	<u>38.0</u>	1.6	36.1	1.3	19.4	2.1	2.0	10.7	0.7	1.5
	80～84歳	100.0 (617)	52.2	21.6	<u>28.7</u>	1.9	45.7	—	19.1	4.2	3.1	17.8	1.5	2.1
	85歳以上	100.0 (397)	46.3	<u>23.4</u>	18.4	4.5	51.1	0.3	15.4	8.3	3.0	21.2	3.0	2.5
動 作 能 力 類 型 別	ねたきり等の高 齢者	100.0 (381)	<u>46.7</u>	<u>18.9</u>	<u>23.1</u>	4.7	51.4	1.6	22.3	5.8	2.1	17.8	1.8	1.8
	ねたきり高 齢者	100.0 (89)	41.6	14.6	21.3	5.6	56.2	3.4	22.5	11.2	2.2	15.7	1.1	2.2
	ねたきりに近 い高 齢者	100.0 (292)	48.3	20.2	23.6	4.5	50.0	1.0	22.3	4.1	2.1	18.5	2.1	1.7
	比較的重い障害 のある高 齢者	100.0 (93)	54.8	23.7	29.0	2.2	43.0	2.2	17.2	6.5	1.1	11.8	4.3	2.2
	軽い障害のある 高 齢者	100.0 (810)	54.0	21.1	31.0	1.9	44.7	3.1	21.2	4.1	3.2	11.7	1.4	1.4
	障害のない高 齢者	100.0 (3,299)	52.7	18.1	32.9	1.6	45.9	6.1	24.5	2.4	1.5	9.7	1.6	1.5

(4) 世帯員の状況

配偶者と暮らしている高齢者は、男性 82%、女性 46%で、男性は 8 割を超える。

高齢者がどのような親族と一緒に住んでいるかをみると、配偶者と暮らしている割合は 62.3%にのぼる。7 年調査と比べると、配偶者なしの子と暮らしている割合が増加し、配偶者ありの子と暮らしている割合は減少している。(図 2-4)

図 2-4 一緒に暮らしている親族（複数回答）－7 年調査との比較



性別でみると、配偶者と暮らしている割合は、男性は 82.3%と 8 割を超えるが、女性は 46.1%にとどまっている。(表 2-3)

年齢階級別でみると、年齢階級が上がるとともに、「配偶者」「息子（配偶者なし）」の割合が減少している一方、「息子（配偶者あり）」「息子の配偶者」の割合は増加している。

表 2-3 世帯員の状況（複数回答）－性、年齢階級別

		総数	配偶者	夫	妻	息子（配偶者あり）	息子（配偶者なし）	娘（配偶者あり）	娘（配偶者なし）	息子の配偶者	娘の配偶者	者孫又はその配偶	親	その他
総数		100.0 (4,583)	62.3	25.5	36.9	9.4	16.2	5.4	12.9	8.9	4.6	13.7	1.6	2.0
性別	男	100.0 (2,052)	<u>82.3</u>	—	82.3	7.7	17.2	4.3	13.1	7.1	3.2	10.8	2.1	0.9
	女	100.0 (2,531)	<u>46.1</u>	46.1	—	10.7	15.4	6.3	12.8	10.4	5.7	16.0	1.2	2.8
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	<u>73.7</u>	31.0	42.6	<u>5.5</u>	<u>20.6</u>	4.0	16.1	<u>4.5</u>	3.2	7.8	4.0	2.3
	70～74歳	100.0 (1,335)	<u>68.8</u>	30.3	38.6	<u>7.0</u>	<u>17.0</u>	4.6	12.3	<u>6.5</u>	3.9	11.3	1.4	1.4
	75～79歳	100.0 (955)	<u>60.4</u>	24.7	35.7	<u>8.6</u>	<u>13.9</u>	4.9	9.7	<u>8.7</u>	4.4	13.6	0.5	1.7
	80～84歳	100.0 (617)	<u>47.3</u>	16.7	30.6	<u>15.9</u>	<u>13.1</u>	7.5	12.3	<u>15.1</u>	6.5	22.7	—	2.6
	85歳以上	100.0 (397)	<u>31.7</u>	6.8	24.9	<u>21.7</u>	<u>10.1</u>	10.8	13.6	<u>22.2</u>	9.1	27.0	—	2.5

(5) 世帯の就業状況

働いている者がいない世帯は4割弱である。

① 世帯の就業状況

世帯の中で働いている者がいるかどうかをみると、「働いている者がいない世帯」は38.9%、「働いている者がいる世帯」は61.1%であった。（表2-4）

世帯構成（世代別）でみると、「働いている者がいる世帯」の割合は、「単身世帯（ひとりぐらし）」では22.2%、「一世代世帯（夫婦のみ）」では46.1%となっている。

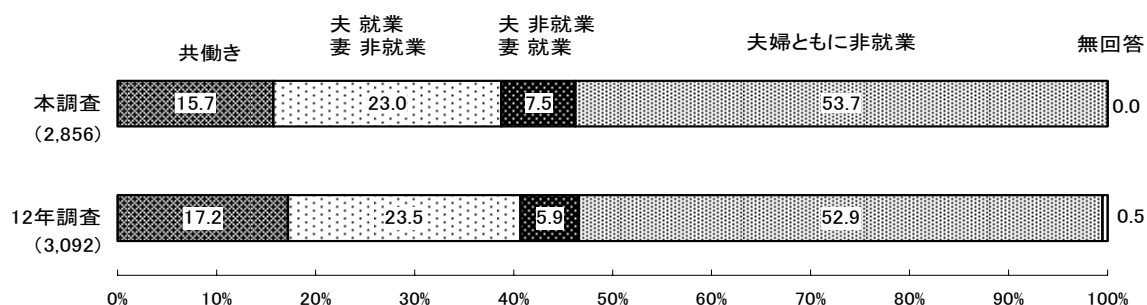
表2-4 世帯業態—世帯構成（世代別）、12年調査との比較

	総 数	世 帯 働 い て い る 者 が い な い	世 帯 働 い て い る 者 が い る	本 人	男	女	配 偶 者	夫	妻	息 子 （ 配 偶 者 あ り ）	息 子 （ 配 偶 者 な し ）	娘 （ 配 偶 者 あ り ）	娘 （ 配 偶 者 な し ）	息 子 の 配 偶 者	娘 の 配 偶 者	孫 ま た は そ の 配 偶 者	親	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,583)	38.9	61.1	27.4	16.6	10.8	19.4	10.0	9.4	8.8	14.3	3.2	10.7	5.4	4.2	4.5	-	0.7	0.1
世帯構成（世代別）																			
単身世帯 （ひとりぐらし）	100.0 (863)	77.6	22.2	22.2	7.1	15.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1
一世代世帯 （夫婦のみ）	100.0 (1,700)	53.9	46.1	30.6	22.0	8.6	31.4	15.9	15.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1
二世世代世帯	100.0 (1,294)	10.9	89.0	29.2	18.6	10.6	19.8	10.2	9.6	6.3	46.9	2.9	32.2	3.2	3.8	-	0.1	0.4	0.1
三世世代世帯	100.0 (619)	2.1	97.9	22.1	12.3	9.9	14.9	8.7	6.1	52.2	7.9	17.8	12.0	31.7	22.9	30.2	0.2	-	-
12年調査	100.0 (5,086)	37.8	61.9	27.7	18.2	9.5	18.1	9.1	9.0	12.0	13.6	3.4	10.6	6.5	4.2	6.3	-	1.0	0.4

② 本人夫婦の就業状況

配偶者のある高齢者について、就業状況を夫婦の組み合わせでみると、夫婦ともに働いていない「夫婦ともに非就業」が最も多く53.7%であり、12年調査に比べて0.8ポイント増加している。（図2-5）

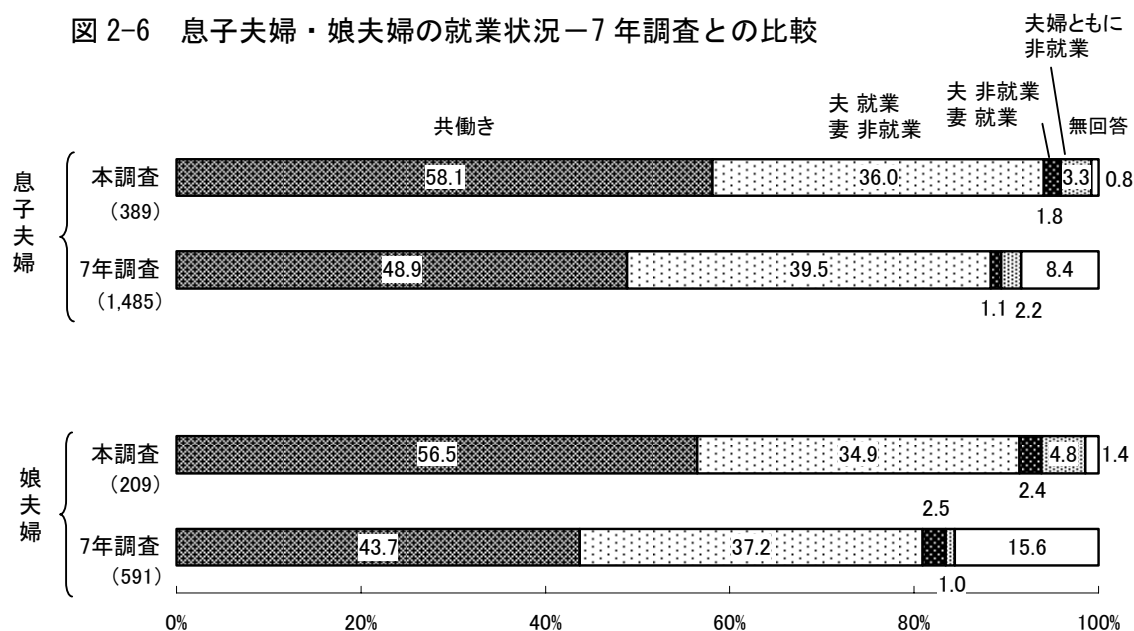
図2-5 夫婦の就業状況—12年調査との比較



③ 息子夫婦・娘夫婦の就業状況

息子夫婦と同居している場合の、息子夫婦の就業状況をみると、「共働き」は 58.1%である。また、娘夫婦と同居している場合の、娘夫婦の就業状況をみると、「共働き」は 56.5%である。7 年調査と比べると、息子夫婦・娘夫婦ともに共働きの割合が 10 ポイント前後増加している。(図 2-6)

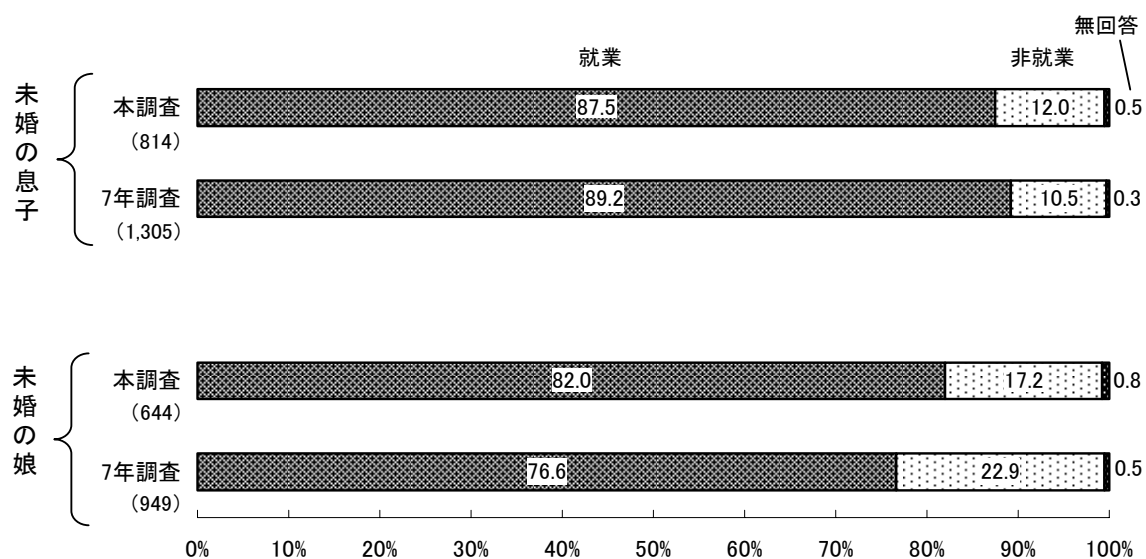
図 2-6 息子夫婦・娘夫婦の就業状況－7 年調査との比較



④ 未婚の子の就業状況

同居している未婚の息子の就業状況をみたところ、就業は 87.5%、非就業は 12.0%であった。また、同居している未婚の娘の就業状況をみたところ、就業は 82.0%、非就業は 17.2%であった。7 年調査と比べると、未婚の息子の就業率が 1.7 ポイント下がったのに対して、未婚の娘の就業率は 5.4 ポイント上がっている。(図 2-7)

図 2-7 未婚の子の就業状況



(注) 総数は、調査対象者が同居している未婚の息子(または娘)全員である。

2 子どもとの関係

(1) 子どもの有無・人数

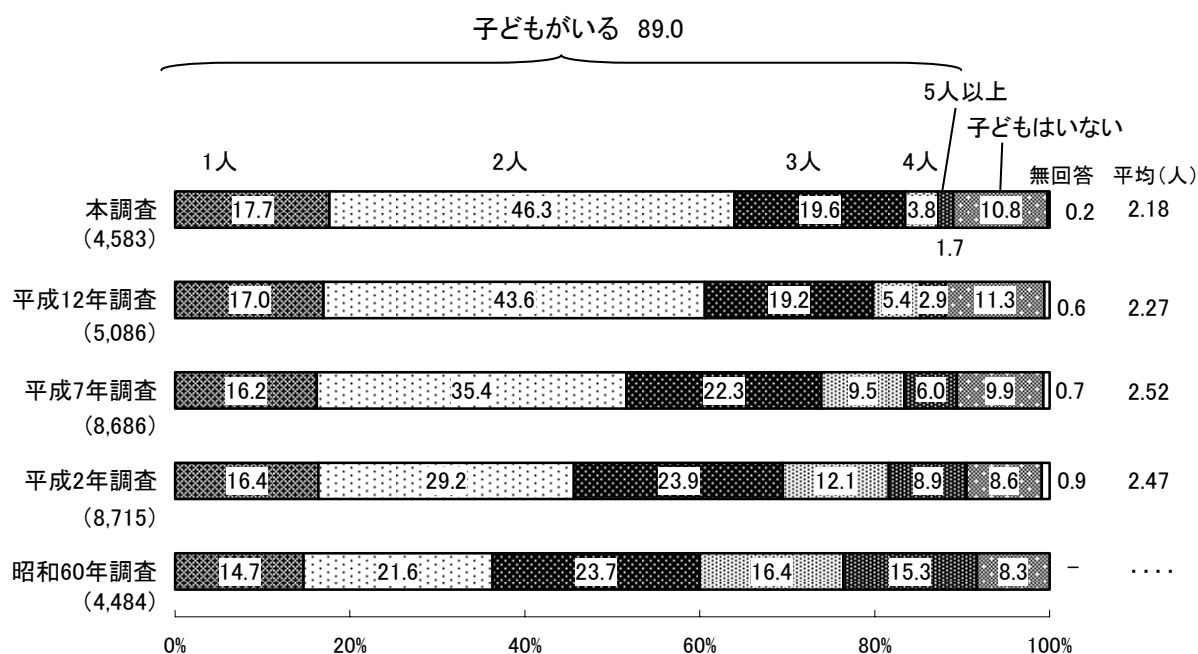
子どもがいる高齢者は9割近い。

子どもの有無を尋ねたところ、子どもがいると答えた高齢者は89.0%で、子どもがいない高齢者は10.8%である。(図2-8)

子どもがいると答えた高齢者のうちの、子どもの平均人数は2.18人。子どもの数は「2人」が46.3%で最も多く、次いで「3人」19.6%、「1人」17.7%と続いている。

過去の調査と比べると、「1人」「2人」が増加しており、「3人」以上は減少している。

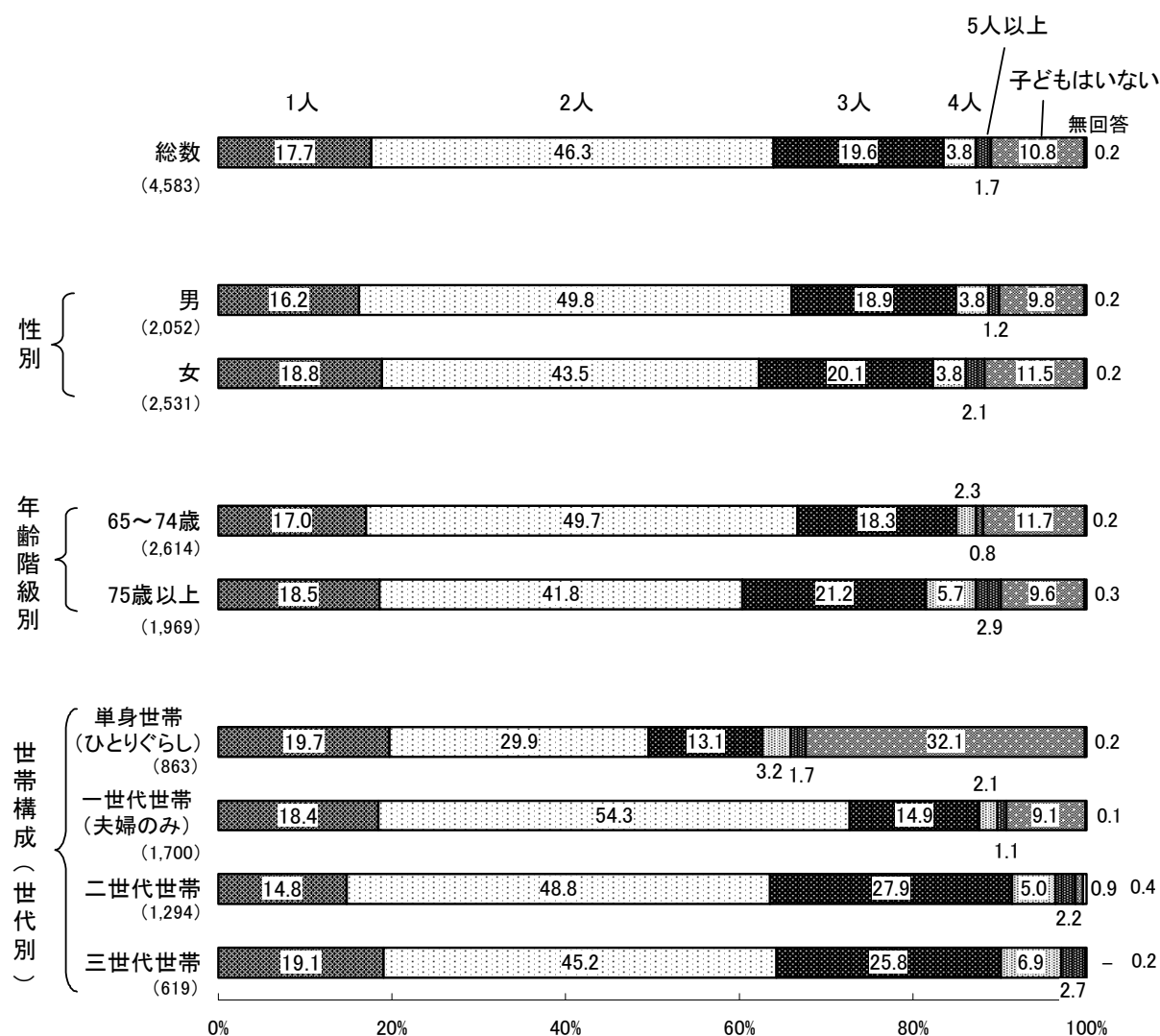
図2-8 子どもの有無・人数－過去調査（昭和60年～）との比較



年齢階級別でみると、前期高齢者（65～74歳）では「2人」が49.7%と5割近くを占めており、次いで「3人」18.3%と続いている。後期高齢者（75歳以上）では前期高齢者に比べて、3人以上子どもがいる割合が高い。（図2-9）

世帯構成（世代別）でみると、ひとりぐらしでは「子どもはいない」割合が32.1%と他に比べてかなり高くなっている。ひとりぐらしの7割近くは子どもがいるが、同居はしていないことになる。

図2-9 子どもの有無・人数一性、年齢階級、世帯構成（世代別）



(2) 子どもとの同居・別居の状況

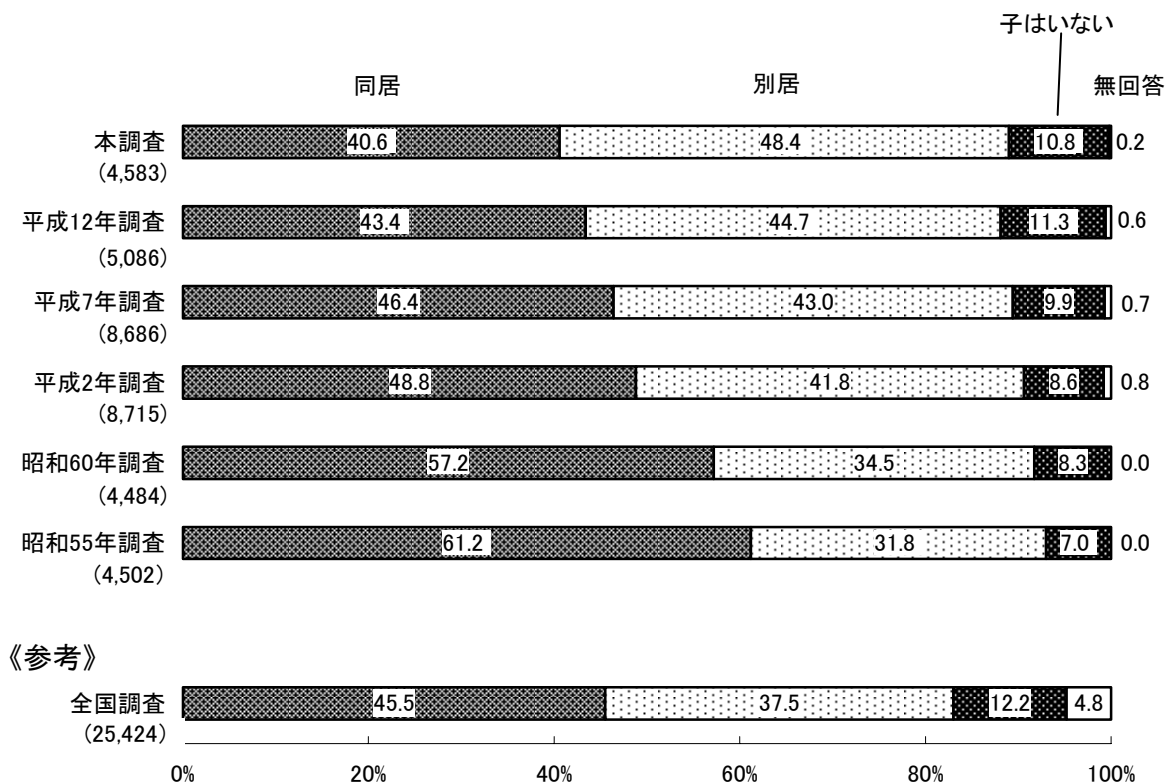
子どもとの同居は4割で、その割合は一貫して減少している。

子どもとの同居・別居の状況をみると、「同居」は40.6%、「別居」は48.4%であり、「別居」が「同居」より7.8ポイント多くなっている。(図2-10)

過去の調査と比べると、「同居」の割合は一貫して減少しており、昭和55年調査以来、25年間で20.6ポイント減少している。

全国調査をみると、「同居」45.5%、「別居」37.5%と、「同居」が「別居」を上回っており、東京都では全国平均に比べて「別居」の割合が高いことがわかる。

図2-10 子どもとの同居・別居の状況―過去調査（昭和55年～）、全国との比較



(注) 全国調査は、厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成16年)による。

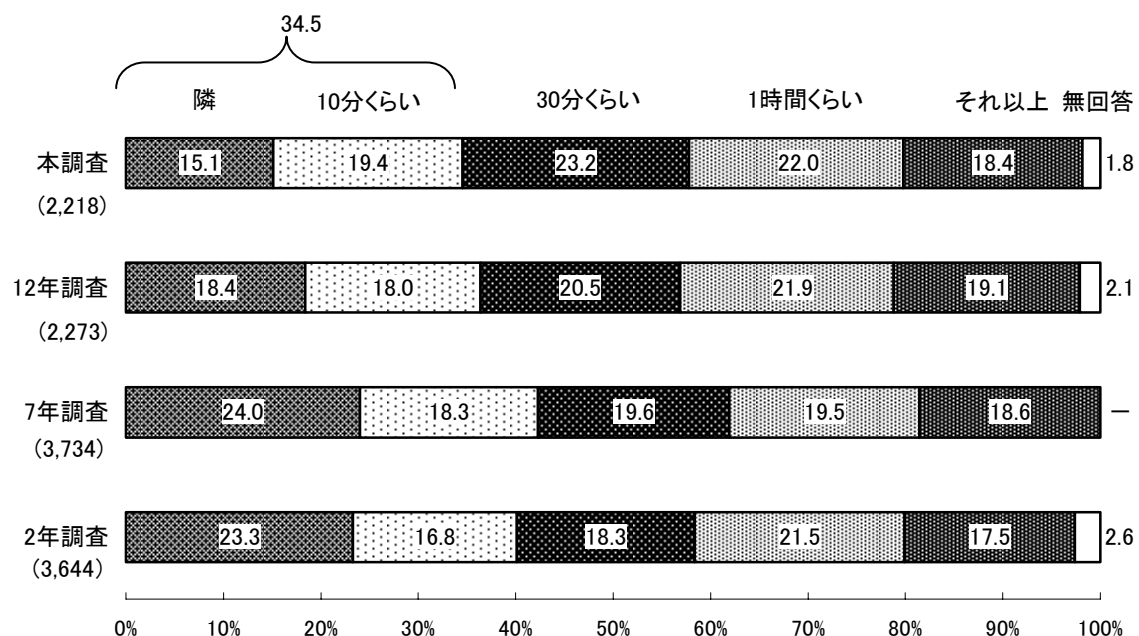
(3) 別居高齢者の子どもとの距離

子どもと別居している高齢者の3人に1人は子どもが10分くらいまでの距離に住んでいる。

子どもと別居している高齢者に、一番近くに住んでいる子どもとの距離を尋ねた。通常行き来する方法での時間で答えてもらったところ、「隣」「10分以内」の合計は34.5%にのぼり、3人に1人の高齢者は子どもが近くに住んでいることがわかった。(図2-11)

過去の調査と比べると、「隣」が減少傾向にある一方、「30分くらい」は増加傾向にある。

図2-11 別居高齢者の子どもとの距離—過去調査（平成2年～）との比較



子どもの有無及び同居・別居の状況を動作能力類型別でみると、おおむね障害の程度が重くなるとともに、同居率が上がっている。(表 2-5)

世帯構成(世代別)でみると、「ひとりぐらし」のうち 21.6%、「一世代世帯(夫婦のみ)」のうち 32.6%は、10 分くらいの距離までに子どもが住んでいることがわかる。

住宅の種類別でみると、「持ち家(一戸建て)」では「同居」が「別居」を若干上回っているが、それ以外の住宅では「同居」が「別居」を 20 ポイント以上下回っている。

子どもの人数別でみると、2 人までは「別居」が「同居」を上回っているが、3 人以上になると反対に「同居」が「別居」を上回っている。

表 2-5 子どもの有無及び同居・別居の状況一性、年齢階級、動作能力類型、世帯構成(世代別)、住宅の種類、子どもの人数別

		総数	子がいる	同居	別居	隣	10分くらい	30分くらい	1時間くらい	それ以上	無回答	子はいない	無回答
総数		100.0 (4,583)	89.0	40.6	48.4	7.3	9.4	11.2	10.6	8.9	0.9	10.8	0.2
性別	男	100.0 (2,052)	89.9	38.5	51.5	6.1	11.6	11.4	11.9	9.7	0.8	9.8	0.2
	女	100.0 (2,531)	88.2	42.3	45.9	8.3	7.6	11.1	9.6	8.3	1.0	11.5	0.2
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,614)	88.1	39.6	48.5	6.2	10.0	11.9	10.9	8.8	0.7	11.7	0.2
	75歳以上	100.0 (1,969)	90.1	41.9	48.2	8.8	8.6	10.4	10.3	9.0	1.2	9.6	0.3
動作能力類型別	ねたきり高齢者	100.0 (89)	91.0	<u>57.3</u>	33.7	5.6	10.1	4.5	5.6	6.7	1.1	9.0	-
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (292)	91.1	<u>49.7</u>	41.4	9.9	6.2	9.6	9.2	5.8	0.7	8.6	0.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (93)	89.2	<u>36.6</u>	52.7	9.7	8.6	7.5	12.9	10.8	3.2	10.8	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	89.6	<u>41.5</u>	48.1	7.9	8.6	11.1	10.2	9.1	1.1	10.1	0.2
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	88.6	<u>39.2</u>	49.3	6.9	9.9	11.7	10.9	9.1	0.8	11.2	0.2
(世帯構成)	単身世帯(ひとりぐらし)	100.0 (863)	67.7	-	67.7	<u>10.9</u>	<u>10.7</u>	15.3	14.7	14.4	1.7	32.1	0.2
	一世代世帯(夫婦のみ)	100.0 (1,700)	90.8	-	90.8	<u>13.5</u>	<u>19.1</u>	21.2	20.2	15.5	1.1	9.1	0.1
住宅の種類別	持ち家(一戸建て)	100.0 (3,180)	93.0	<u>46.9</u>	<u>46.0</u>	8.5	9.0	10.1	9.7	7.9	0.8	6.8	0.2
	持ち家(分譲マンション等)	100.0 (462)	84.6	<u>31.6</u>	<u>53.0</u>	7.8	9.7	13.4	12.3	9.5	0.2	15.4	-
	民間賃貸住宅	100.0 (411)	67.4	<u>23.4</u>	<u>44.0</u>	3.4	8.0	10.2	9.7	10.9	1.7	31.9	0.7
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (363)	86.8	<u>22.6</u>	<u>64.2</u>	2.2	13.5	17.1	16.0	13.8	1.7	12.9	0.3
子どもの人数別	1人	100.0 (809)	100.0	<u>37.2</u>	<u>62.8</u>	6.7	7.3	13.5	15.1	18.5	1.7	-	-
	2人	100.0 (2,122)	100.0	<u>42.1</u>	<u>57.9</u>	8.7	12.2	13.3	13.2	9.6	0.8	-	-
	3人	100.0 (896)	100.0	<u>57.1</u>	<u>42.9</u>	8.4	10.2	11.0	7.3	5.6	0.4	-	-
	4人以上	100.0 (251)	100.0	<u>61.0</u>	<u>39.0</u>	8.8	8.8	9.6	8.0	2.0	2.0	-	-

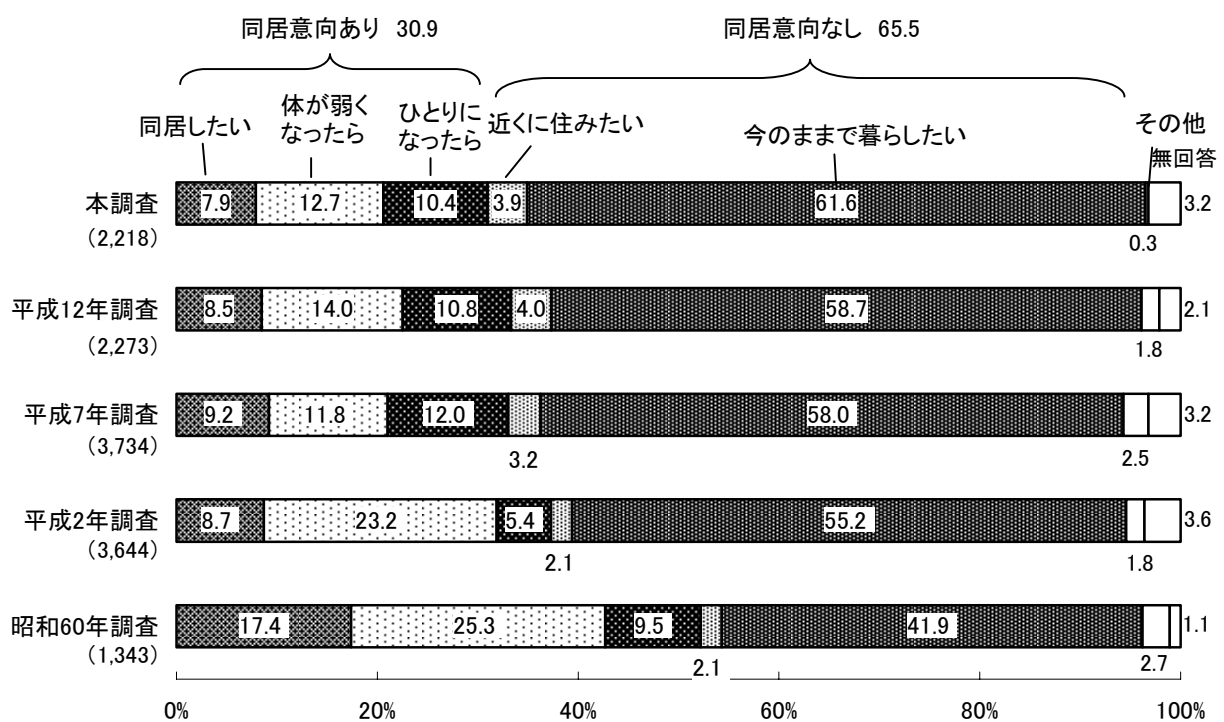
(4) 子どもとの同居の意向

子どもとの同居を望まず、「今のままで暮らしたい」と考える高齢者が増加。

子どもと別居している高齢者に、将来子どもと同居したいと思うかを尋ねたところ、「今のままで暮らしたい」が61.6%と6割を超え、同居意向のある高齢者は30.9%にとどまった。(図2-12)

過去の調査と比べると、「今のままで暮らしたい」は一貫して増加している。

図2-12 別居高齢者の子どもとの同居意向－過去調査（昭和60年～）との比較



性別でみると、「今のままで暮らしたい」は女性が男性よりも3.5ポイント(男性59.8%、女性63.3%)高い。一方、「ひとりになったら(同居したい)」は男性が女性よりも6.2ポイント(男性13.6%、女性7.4%)高く、男性のひとりぐらしへの不安がうかがえる。

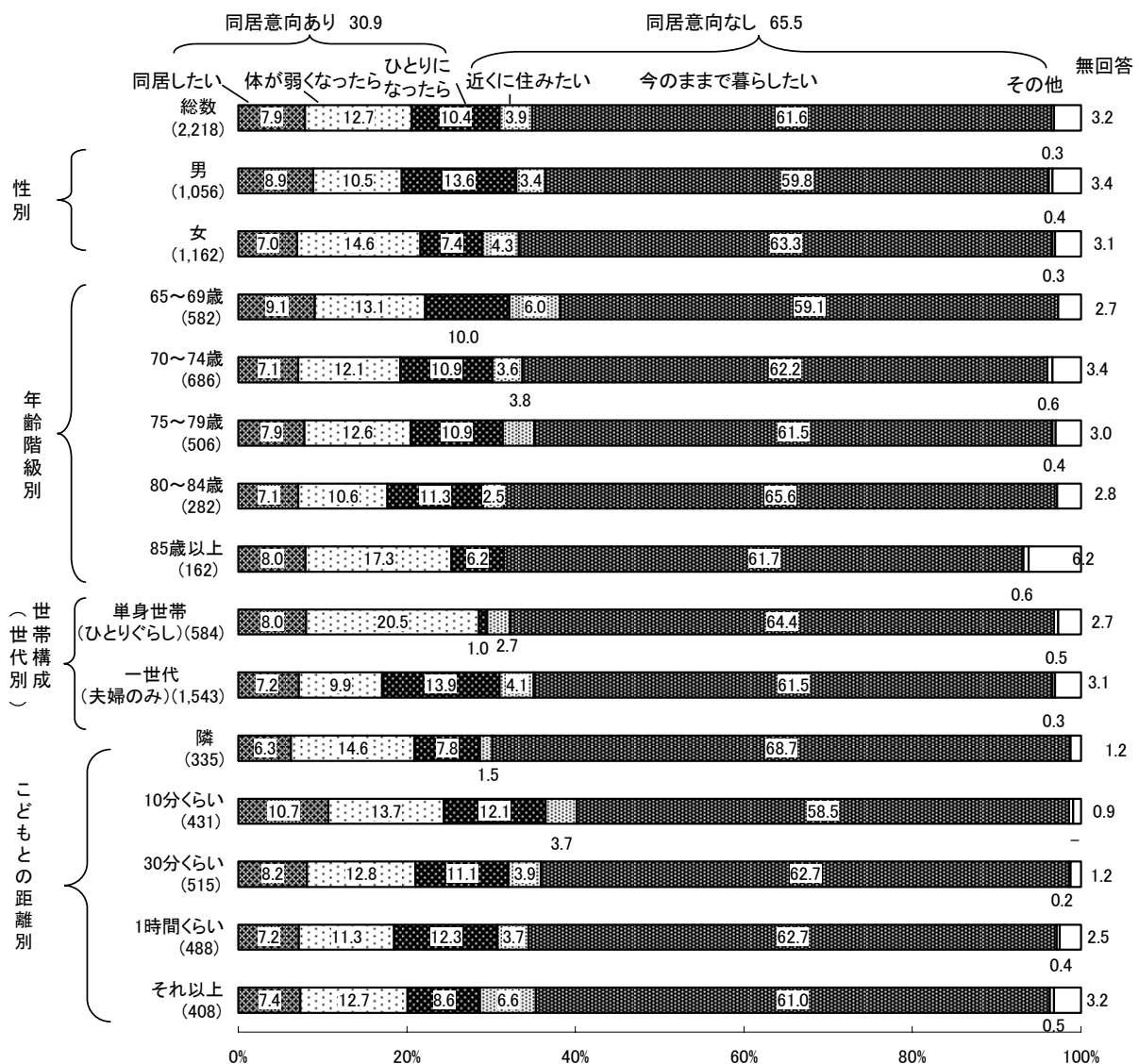
(図2-13)

年齢階級別でみると、85歳以上でも「今のままで暮らしたい」は61.7%と6割を超えているが、「体が弱くなったら」も17.3%で、他の年齢階級に比べて多くなっている。

世帯構成(世代別)でみると、単身世帯(ひとりぐらし)でも「今のままで暮らしたい」は64.4%と6割を超える。しかし、「体が弱くなったら」も20.5%と、「一世代世帯(夫婦のみ)」の9.9%に比べて10.6ポイント多く、健康状態が悪化したときのひとりぐらしに不安を感じる高齢者が多いこともうかがえる。

子どもとの距離別でみると、「同居したい」は10分くらいの割合が10.7%と最も高く、「今のままで暮らしたい」は隣が68.7%と最も高い。

図2-13 別居高齢者の子どもとの同居意向一性、年齢階級、世帯構成(世代別)、子どもとの距離別



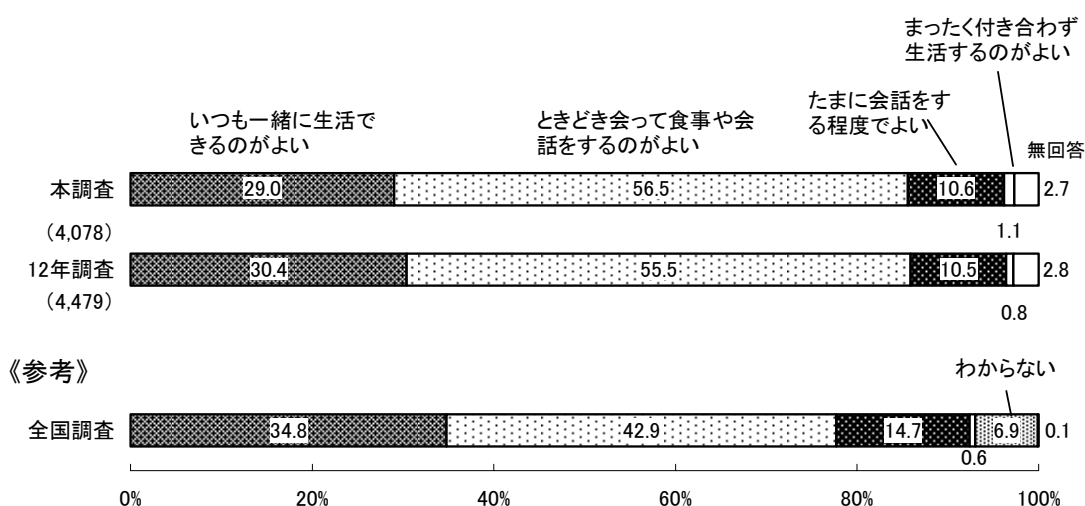
(5) 子どもや孫とのつきあい方

子どもや孫とのつきあい方は「ときどき会って食事や会話をするのがよい」が過半数。

子どもがいる高齢者に、子どもや孫とのつきあい方について尋ねたところ、「ときどき会って食事や会話をするのがよい」が 56.5% と 5 割を超え、次いで「いつも一緒に生活できるのがよい」29.0% となっている。(図 2-14)

全国調査と比べると、「ときどき会って食事や会話をするのがよい」が 13.6 ポイント(本調査 56.5%、全国調査 42.9%) 高くなっている一方、「いつも一緒に生活できるのがよい」は 5.8 ポイント(本調査 29.0%、全国調査 34.8%) 低くなっている。

図 2-14 子どもや孫とのつきあい方—12 年調査、全国との比較



(注 1) 全国調査は、内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較結果」(平成 18 年)による。

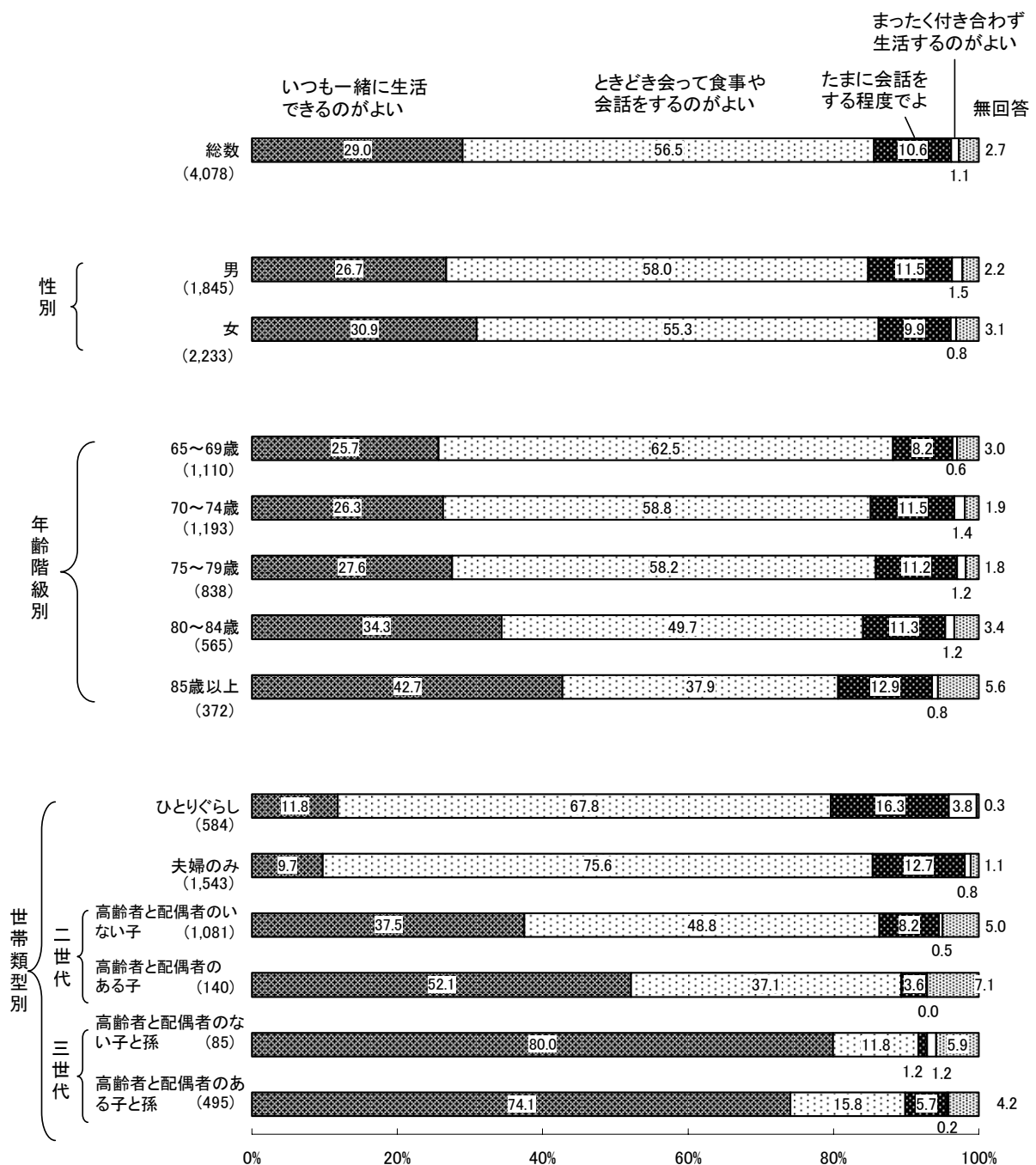
調査対象者は、全国 60 歳以上の男女。

(注 2) 全国調査には、「わからない(6.9%)」がある。

年齢階級別でみると、年齢階級が高くなるとともに「いつも一緒に生活できるのがよい」と答える割合が高くなっている。(図 2-15)

世帯類型別でみると、「ひとりぐらし」「夫婦のみ」は「ときどき会って食事や会話をするのがよい」がそれぞれ 7 割弱、7 割半ばにのぼっている。一方、三世代では「いつも一緒に生活できるのがよい」が 7 割以上となっており、子孫と一緒に暮らしに満足している様子がうかがえる。二世代では、「高齢者と配偶者のいる子」では「いつも一緒に生活できるのがよい」が 52.1%と過半数を超えるが、「高齢者と配偶者のいない子」では「ときどき会って食事や会話をするのがよい」が 48.8%と 5 割弱にのぼっている。

図 2-15 子どもや孫とのつきあい方一性、年齢階級、世帯類型別



家族に関して寄せられた意見・要望は7件であった。

【寄せられた意見・要望の一部の紹介】

- 子に配偶者がいないので自分が孫の世話を毎日しているが困っている。行政の支援はどのようにしたら受けられるのでしょうか。(男性・70代)
- 長女が離婚して帰ってきた。母子家庭にはいろいろ援助があるらしいが何も言わない。パートで働いているが、親の家だからすねをかじりたいだけかじっている。生活費から孫のことまで大変だ。しかし、もっと先になったらこの娘の世話になるのかなーと今回の調査を受けてそう思った。もう1人次女がいるので早く自立してほしい。老夫婦だけの静かな生活は夢のようだ。痛しかゆし。(男性・70代)
- ひきこもりで働かない子どもをかかえている知人がいます。働く場がない人に対する取り組みはいろいろ考えられているようですが、働こうにも出て行けない人たちがどの位いるか把握していますか？親も高齢になり、子どもが働かなくてもよいくらいの財力もなく、また働くこともできず、これから子どもの生活費を貯蓄することもできない。そのような親子に対する支援や、役立つ情報が見えてくるような行政になってください。(女性・60代)
- 今は33歳の娘の収入に頼って生活している、娘がかわいそうだけどどうしようもない。娘の負担にならないで暮らしたい。身体は丈夫ではないが、働かなければならないが仕事がない。(女性・60代)
- 子どもには迷惑かけたくないので1人で頑張りたい。自分の力では家も直せない。小さくてもよいので古い家を売って新しい家に入りたいが、相談したり助けてくれる人がいない。自分のことは自分でしたい。(女性・70代)